

『「ワンピース世代」の反乱、「ガンダム世代」の憂鬱』を読んで

島田 涼花

「アニメがこんなにも人格形成に影響を与え、ひいては世代闘争の原因にもなり得るのか」それがこの本を読み終えたときの最初の感想だった。

私はこれまで世代間の考え方や感覚の差は、その多くが単に生まれた時代や人生経験の差によるものだと思っていた。しかし、この本を通じて決してそれだけが理由ではなく、ティーンエイジ時代（13～19歳）をどんな漫画・アニメとともに過ごしたか？が知らず知らずのうちに人格形成に影響を与えている事実を目の当たりにし、その影響力を認めざるをえなくなった。そして、それによって生まれた世代間のギャップがこれからの日本社会にもたらす影響についての指摘を読んで、世代間のギャップをどう捉え、コントロールしていくのかという点について非常に考えさせられた。

さて、そもそも私自身がこの本を手にとった理由は他にもない、現在22歳の自分自身がほぼ「ワンピース世代」であり、書名に強いインパクトを受けたからである。

本著の筆者によればワンピース世代というのは1978～88年に生まれた世代で、その特徴として“ヨコ社会”の中に生き、最優先の軸が「仲間」で、属する会社や社会にそれほど重きを置かないことがあり、その背景にあるものこそ「組織に属さず、仲間と自由を大切にするワンピースの世界観」だと言う。

この指摘は少なくとも私自身については概ね当たっているし、周りの友人らを見ているもそうではないかと思う。身近なところでいえば、どの大学に属しているかよりも、サークルやアルバイトでどんな仲間を獲得しているか、どれだけ自分の思うままに自由に生きているかという事の方が関心として高い。そんなワンピース世代の私からしてみれば、ガンダム世代（本書の定義では1960～69年に生まれ、“タテ社会”の中で属する企業名などにアイデンティティを見出し、企業への貢献を何よりも重視する世代）の働き方、ひいては生き方は非常に窮屈で不自由に見え、「それで自分の人生終わって良いの？」ときえ言いたくなるのが本音だ。まさにガンダム世代である両親のそんな生き方を見てきたからこそ、自分はずっと自由でありたいと思ってきたし、不安定で先行きが不安な日本のこれからの生きる上ではある意味組織に依存する“ガンダム世代”の生き方はむしろリスクだと感じてしまう。

一方で、逆に“ガンダム世代”からしてみれば、ヨコのつながりと自由を大切にする私たちを見て、タテの社会が分かってない、社会を理解していないという風を感じ「ゆとり世代」と揶揄する事になってしまうのだろう。

しかしながら、だからといって「世代が違うから理解するのはもはや不可能」と世代間のギャップを仕方のないものとして諦めても良いのかということそうではないと思う。なぜならば、日本社会自体が“タテ社会”を前提にしたものだからだ。どんなに理解できなく

でも会社では“ワンピース世代”と“ガンダム世代”がともに仕事をしなくてはいけないし、もっと広く見れば近い将来“ワンピース世代”が“ガンダム世代”を年金、介護などあらゆる面で支えなければならない。これらのいずれもが“タテ社会”という構造の上で成り立つものなのだ。

そんなタテ社会が当たり前という中で、初めて現れたヨコ社会を重視する“ワンピース世代”という存在。私自身も含めたこの世代を、いかにタテ社会から遠ざけずマッチさせていけるのがこれから日本社会にとって大きな転機になるだろう。

私個人の意見としては、世代間のギャップがありながらうまく共存していくには、1. なぜこの世代はこう考えるのか？をお互いに理解する事、2. 別の世代の良いところを認め合う事、この2点が重要なのではないかと思う。

1 点目については、たとえば世代間で意識の差が顕在化した時には、当たり前のように「上の世代の言う事が常識」とされ、それ以上でもそれ以下でもないという形で片付けられる。そこに世代の違いが加味される事などほぼあり得ない。しかし、これまでの常識に反する世代が生まれてきた以上、そこで反発を招かないためにはお互いに柔軟に対応しなければならない。それぞれの世代の常識を理解した上で、妥協点を探る事をしない限り、今後ますます増えるであろう“ヨコ社会”を良しとする者との共存は難しいと思う。

それに関連するのが2点目で、これまでは上の世代が言う事は絶対というのが世の常だった。しかしながら、これだけ世代によって考え方が違えば、上の世代が絶対的に正しくて、下の世代が絶対的に間違っているなどという事は必ずしも言えなくなってくるのではないだろうか。そういった意味で、“違い”の中から良いと思うものをお互いに認め、吸収していけば、世代間のギャップが良い方向に働くと考えられる。

“ワンピース世代”の登場によって、これからの日本では世代間のギャップがより広がっていくと思われる。その時に、そのギャップを活かせるのか、それとも握りつぶしてしまうのかによって、組織、そして社会の未来が大きく変わる時代になっていくだろう。

だからこそ、若い世代の反乱、ひいては世代間闘争を防ぐには、若い世代がガンダムを見て、上の世代がワンピースを読む。もしかしたらそれが案外、一番の近道なのかもしれない。